

猪瀬戸湿原

野焼きの復活

猪瀬戸の特徴的な草原地帯は、1950年代以降、徐々に縮小しています。農村人口や農業活動の減少によって、木々が侵入し、森林地帯が増えました。2005年、猪瀬戸湿原を再生し、森林化を逆転させるプロジェクトが開始されました。

このプロジェクトは、3年間にわたって湿原の歴史、植生、自然環境を研究することから始まりました。湿原のいくつかの区画が実験区として使われ、野焼き、草刈り、放置など、草原を保護するための様々な方法が試されました。この実験によって、猪瀬戸の草原地帯を維持、再生するには、野焼きが最も効果的な方法であることが判明しました。

2012年、40年ぶりに、猪瀬戸湿原保全の会と、土地の所有者である、株式会社城島高原オペレーションズの協力を得て、野焼きが再開されました。それ以来、毎年、野焼きが行われています。2016年、環境省は、この地域を重要な湿原に指定し、自然生態系と多様な植物を積極的に保護、保全しています。